

2021年度（第32回）中部リウマチ学会総会
（日本リウマチ学会中部支部総会）

議 題：

1. 支部代表より……………一般社団法人日本リウマチ学会理事会報告（資料①）
2. 2020年度会計報告（資料②）
3. 2022年度予算(案)（資料③）
4. 第35回(2024年)会長の選出
中島亜矢子先生（三重大学医学部附属病院 リウマチ・膠原病センター）
が選出されました
5. 新評議員・新編集委員について
 - *新評議員
川口 洋平先生（名古屋市立大学病院）
小早川 知範先生（小早川整形リウマチクリニック）
土屋 廣起先生（あらこ整形外科・リウマチ科クリニック）
平原 慎也先生（萩原整形外科リウマチクリニック）

*新編集委員

篠田 晃一郎先生（富山大学大学院医学薬学研究部内科学第一）

*新功労会員

2021年3月31日の評議員の定年にともない、2名の先生が功労会員に
推挙されましたのでご報告申し上げます。

飯笹 泰蔵先生、
林 正岳先生

以上、議題2－5につきましては理事会・評議員会メール審議にておいて承認されました。
尚、評議員会は過半数以上の返信がありました。

一般社団法人 日本リウマチ学会 理事会報告

2021年9月13日
JCR 中部支部長 石川 肇

日本リウマチ学会 (JCR) 会員数

(2021年3月1日現在)

県名	会員数(中部リウマチ学会員数/JCR 会員数)				専門医区分別		教育施設数	新リウマチ専門研修認定教育施設
	一般会員	評議員	その他	合計	専門医	指導医		
山梨	7/49	3/3	0/1	10/53	28	10	4	1
長野	21/137	11/12	3/3	35/152	81	27	13	8
新潟	26/73	17/18	5/5	48/96	59	30	9	3
富山	24/83	6/4	1/2	31/89	39	13	7	3
石川	15/130	13/13	1/2	29/145	56	25	9	7
福井	9/82	4/4	0/0	13/86	37	9	6	3
岐阜	26/157	4/5	2/7	32/167	67	23	9	4
静岡	26/179	18/19	3/8	47/207	117	38	21	8
愛知	101/483	56/49	12/18	167/552	260	86	36	22
三重	11/85	1/3	2/2	14/90	49	14	4	2
中部支部	271/1458	136	27/49	434/1637	789	275	118	61
JCR 全体	8309	1002	522	9833	4883	1854	602	293

2021年度 第2回理事会 (2021年7月4日 (日) WEB開催) および第3回 WEB理事会
(同年8月21日 (土) WEB開催) 議事録 (一部抜粋) より

1. 第65回学術集会について

- 第65回学術集会は2021年4月26日(月)から28日(水)の間、WEBライブ配信で開催された。参加者は6,831名(有料参加者は6,570名)、一般演題は1,273演題であった。剰余金1,255万円のうち、1,000万円を本部から来年の第66回大会、助成金に充てることが承認された。

2. 第66回学術集会について

- ・ 第66回学術集会は2022年4月25日(月)から27日(水)の間、パシフィコ横浜ノースで開催する。開催方式は可能な限り対面形式を取り入れたハイブリッド開催とするが、スポンサー企業の意向も考慮しつつ、海外演者については基本的にWEBでの招待を想定している。特別講演に西村康稔経済再生担当大臣に招聘し、コロナ対策での苦労話などについて講演していただく。
3. MR・MRCRについて
- ・ Editorial Managerは6月1日からTaylor & Francis (T&S)からOxford University Press (OUP)へ移行済み。来年出版する論文について既にOUPに入稿されており、オンライン出版等含めた作業を進めている。
 - ・ MRの2020年Impact Factor (IF)が3.023と発表された。過去最も高く、かつ従来「2」前後の推移から「1」近く上がった。今回から3年かけて順次計算方法を変えていく初年度ということから、全てのジャーナルで少しずつ高くなっているという背景がある。
 - ・ 完全オンライン出版とする話もあるが、現時点では従来通り冊子体の発行・配布を継続する予定である。
 - ・ 2020年にMEDLINEに収載され、PubMedなどに掲載されるようになったことで特に海外からの投稿が大幅に増えている
4. 専門医試験について
- ・ 2020年度専門医認定試験は本試験(6/27実施)214名、追試験(7/17実施)6名が受験した。合格ラインを検討した結果、偏差値40以上にあたる合格点55点、合格率80.91%のラインが妥当であると報告された。
 - ・ 来年度の試験については、本年と同じく6~7月にCBTで行う予定。
 - ・ 日本イーライリリーから提案された「専門医試験過去問題を活用した医師向けコンテンツの作成」について、教育という観点およびCOIの観点から作成する場合は学会予算で行うこととする。
5. 医学用語委員会より
- ・ Preclinical rheumatoid arthritisの和訳は「診断未確定関節リウマチ」が適切であるとの結論が報告され承認された。
 - ・ リウマチ用語集の改訂にあたり若手を中心とするWGを設置することが承認された。
6. 全国中央教育研修会・リウマチ相談員養成研修会について
- ・ 2021年度のJCR全国中央教育研修会は、12月5日にお茶の水ソラシティカンファ

レンスセンターにおいて「全国中央教育研修会東京大会」として開催する。今講習会は1か月程度の期間WEBで視聴できるオンデマンド配信を予定。

- ・
- 7. リウマチ病学テキスト改訂第3版について
来年4月学術集會に合わせて改訂版を發刊する計画で作業を進めている。
- 8. 男女若手共同参画委員会より
 - ・ 男女若手共同参画奨励賞は、対象者を2名（件）以内とし、賞金は個人1件10万、施設1件20万とする、
 - ・ 厚生労働省あるいは文部科学省からは「男女」という言葉は使わない傾向があるため、賞の名称は再度委員会で検討する。
- 9. 関節超音波講習会について
 - ・ コロナ禍での講習会の在り方を検討。WEB形式では難しい面があるため、各地域の委員にたたき台の作成を依頼し、ニューノーマルの時代に対応していく案を作成予定である。
 - ・ Personal Device を用いたハンズオンのウェブ講習を考えている。
- 10. 2021年度教育施設（新規・継続）の認定について
 - ・ 2021年度新規教育施設として13施設、更新として172施設が認定され教育施設は607施設となった。
 - ・ 中部ブロックで新規認定された施設は、富永草野病院（新潟）、金沢赤十字病院（石川）、藤田記念病院（福井）、海津市医師会病院（岐阜）、岐阜県立多治見病院（岐阜）、トヨタ記念病院（愛知）の6施設。
 - ・ 問題として講演会や研究会がコロナ禍で一度も開かれていない施設があった。委員会としてはコロナ禍ということを考慮し、3年の間に必ず改善するようコメントを付けて認定した。
- 11. 専門医整備基準およびカリキュラムの改定について
 - ・ 7月26日にリウマチ膠原病領域専門医検討委員会において、「リウマチ性疾患」ではなく「膠原病・リウマチ領域疾患」の名称が適切であるとの指摘を受け、新専門医制度によるサブスペ専門医を基本領域が内科の専攻医が取得する専門医に位置づけることとし、領域名も「膠原病・リウマチ内科専門医」で申請することになった。
 - ・ 基本領域が整形外科あるいは小児科の専攻医については、これまで通り学会認定専門医、いわゆる「リウマチ専門医」を取得していくこととなった。

- ・ 整形外科医にとってリウマチ診療は非常に重要であり、日本整形外科学会の会員には、日本リウマチ学会のリウマチ専門医をぜひ取るよう伝えると同時に、整形外科のリウマチ専門医が、膠原病・リウマチ内科専門医と同等にリウマチ診療に携われるよう進めていただきたいという要望が伝えられた。
- ・ 今後、多くの整形外科医がリウマチ専門医を目指すためにも、膠原病が中心となっている研修内容の見直しが必要であること、「リウマチ専門医」と「膠原病・リウマチ内科領域専門医」という二つの専門医の位置づけ、さらには各専門医取得のための専門医試験などなど、専門医の在り方の議論の延長線上でこれらを検討していくことが必要であることを確認した。

1 2. トファシチニブについて

- ・ 6月11日付で欧州医薬品庁（EMA）の安全性監視リスク評価委員会（Pharmacovigilance Risk Assessment Committee/PRAC）から、トファシチニブに関して監視リスクのある患者さんなどへ使用する際に適切な代替治療法がない場合のみ使用すべきという勧告が出たとの報告が日本ファイザー社からあり、今回もまず会員へのアナウンスのため JCR ホームページにその内容を掲載した。

1 3. ヒュミラの X 線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎適用拡大について

- ・ 「ヒュミラの X 線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎適用拡大」について、日本脊椎関節炎学会との連名で公知申請の要望書を提出する。

1 4. 社会保険委員会からの報告

- ・ 7月27日の厚労省医療技術評価のヒアリングにおいて、提案書のうち「顕微鏡的多発血管炎等のリツキシマブの外来化学療法加算2」と「関節液検査」に関するプレゼンと質疑応答を行った。会員からも要望の多い HLA のタイピングの件で、B51 とあるいは B27 といった特定のものに対する検査に関しては検査試薬自体が認可されていないものを使用しているということがあり、違う形での対応を検討している。

1 5. オーラノフィン錠 3 mg 「サワイ」販売中止について

- ・ 本剤については RA リウマチ診療ガイドラインに個別の記載はないことから販売中止となることに問題ない。

1 6. メトトレキサート 1 mg 錠と 4 mg 錠の承認と不採算品再算定の要望書提出について

- ・ 臨床現場では 1 mg 錠があった方が有益であることから、1mg 承認の要望書提出を

承認する。ただし、より多くの先生方や患者に届くようにするためにも、他の製剤メーカーに働きかけるようにする。

17. 追加事項

- ・ 8月30日に開催された APLAR 総会での決定事項として、竹内勤先生が APLAR 次期理事長（2023年から2年）に、田中良哉先生が2025年の APLAR 会長（福岡市）に（2024年はシンガポールに決定）、京都大学が APLAR Center of Excellence 2021 に選出された。

2. 会計報告

A. 会員状況（2020年3月31日）

	個人	法人
2020年度	434名 (入会4 / 退会6)	20社

B. 役員（2021年3月31日）

評議員	理事	編集委員	監事	名誉会員
135名	13名	3名	2名	21名

C. 監査報告書・会計報告（次頁）

2021年 8月31日

監査報告書

日本リウマチ学会中部・甲信越支部
代表
石川 肇 殿

中部リウマチ学会

監事

石黒直樹 

2020年4月1日から2021年3月31日までの会計年度における会計及び
業務の監査を行い、次の通り報告する。

1. 監査方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査
手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係
書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を
検討した。

2. 監査意見

- (1) 収支計算書は、会計帳簿の記載金額と一致し、学会の収支状況及び財政
状況を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容は真実であると認める。
- (3) 理事の職務執行に関する不正の行為または法令もしくは寄付行為に違反
する重大な事実はないと認める。

会計及び業務報告書
2020年度(2020. 4. 1~2021. 3. 31)

1. 収支計算書

【収入】

項目	2020年度予算		項目	2020年度決算	
会費(個人)	1,230,000	(476名)	会費(一般会員)	550,000	275名
			会費(評議員)	532,000	133名
会費(法人)	1,140,000	(19社)	会費(法人広告費)	1,170,000	20社
掲載料	20,000		掲載料	0	
利子			利子	34	
小計	2,390,000		小計	2,252,034	
前期繰越金	2,515,000		前期繰越金	3,632,506	
合計	4,905,000		合計	5,884,540	

【支出】

項目	2020年度予算		項目	2020年度決算	
印刷費 学会誌	700,000	(年2回)	印刷費 学会誌	699,200	(年2回)
その他	30,000		その他	57,310	
郵送料 学会誌	120,000	(年2回)	郵送料 学会誌	93,130	(年2回)
その他	70,000		その他	130,380	
振込手数料	2,000		振込手数料	2,372	
事務用品費	10,000		パソコン購入費	221,180	
人件費(事務給与)	528,000		人件費(事務給与)	528,000	
学会出張旅費	25,000		HP保守費用	55,660	
学会人件費	20,000				
小計	1,505,000		小計	1,787,232	
次期繰越金	3,400,000		次期繰越金	4,097,308	
合計	4,905,000		合計	5,884,540	

次期繰越金

4,097,308 円

2020年4月1日から2021年3月31日までの会計年度における会計及び業務の監査を行った結果、その内容は適正なものと認めます。

2021年 8月31日
監事

石黒直樹 

2021年 8月 27日

監査報告書

日本リウマチ学会中部・甲信越支部
代表
石川 肇 殿

中部リウマチ学会

監事 深谷 直樹 

2020年4月1日から2021年3月31日までの会計年度における会計及び業務の監査を行い、次の通り報告する。

1. 監査方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査意見

- (1) 収支計算書は、会計帳簿の記載金額と一致し、学会の収支状況及び財政状況を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容は真実であると認める。
- (3) 理事の職務執行に関する不正の行為または法令もしくは寄付行為に違反する重大な事実はないと認める。

会計及び業務報告書
2020年度(2020. 4. 1~2021. 3. 31)

1. 収支計算書

【収入】

項目	2020年度予算		項目	2020年度決算	
会費(個人)	1,230,000	(476名)	会費(一般会員)	550,000	275名
			会費(評議員)	532,000	133名
会費(法人)	1,140,000	(19社)	会費(法人広告費)	1,170,000	20社
掲載料	20,000		掲載料	0	
利子			利子	34	
小計	2,390,000		小計	2,252,034	
前期繰越金	2,515,000		前期繰越金	3,632,506	
合計	4,905,000		合計	5,884,540	

【支出】

項目	2020年度予算		項目	2020年度決算	
印刷費 学会誌	700,000	(年2回)	印刷費 学会誌	699,200	(年2回)
その他	30,000		その他	57,310	
郵送料 学会誌	120,000	(年2回)	郵送料 学会誌	93,130	(年2回)
その他	70,000		その他	130,380	
振込手数料	2,000		振込手数料	2,372	
事務用品費	10,000		パソコン購入費	221,180	
人件費(事務給与)	528,000		人件費(事務給与)	528,000	
学会出張旅費	25,000		HP保守費用	55,660	
学会人件費	20,000				
小計	1,505,000		小計	1,787,232	
次期繰越金	3,400,000		次期繰越金	4,097,308	
合計	4,905,000		合計	5,884,540	

次期繰越金

4,097,308 円

2020年4月1日から2021年3月31日までの会計年度における会計及び業務の監査を行った結果、その内容は適正なものと認めます。

2021年 8月 27日

監事

深谷直樹 

3. 2022年度予算（案）（2022年4月1日～2023年3月31日）

収 入			支 出		
項 目	2021年度予算		項 目	2021年度予算	
前期繰越	4,110,000				
会 費（一般会員）	600,000	(300名)	印刷費 学会誌	800,000	(年2回)
会 費（評議員）	540,000	(135名)	その他	50,000	
広告料（法人）	1,170,000	(20社)	郵送料 学会誌	120,000	(年2回)
			その他	100,000	
			振込手数料	2,000	
			事務用品費	10,000	
			人件費(事務給与)	528,000	
			学会出張旅費	25,000	第33回
			学会人件費	20,000	
小 計	6,420,000		小 計	1,655,000	
			次期繰り越し	4,765,000	
合 計	6,420,000		合 計	6,420,000	